

大麦だより（第3号）

令和6年10月 日
J A 能 美
南加賀農林総合事務所

至急、除草剤散布を検討してください！

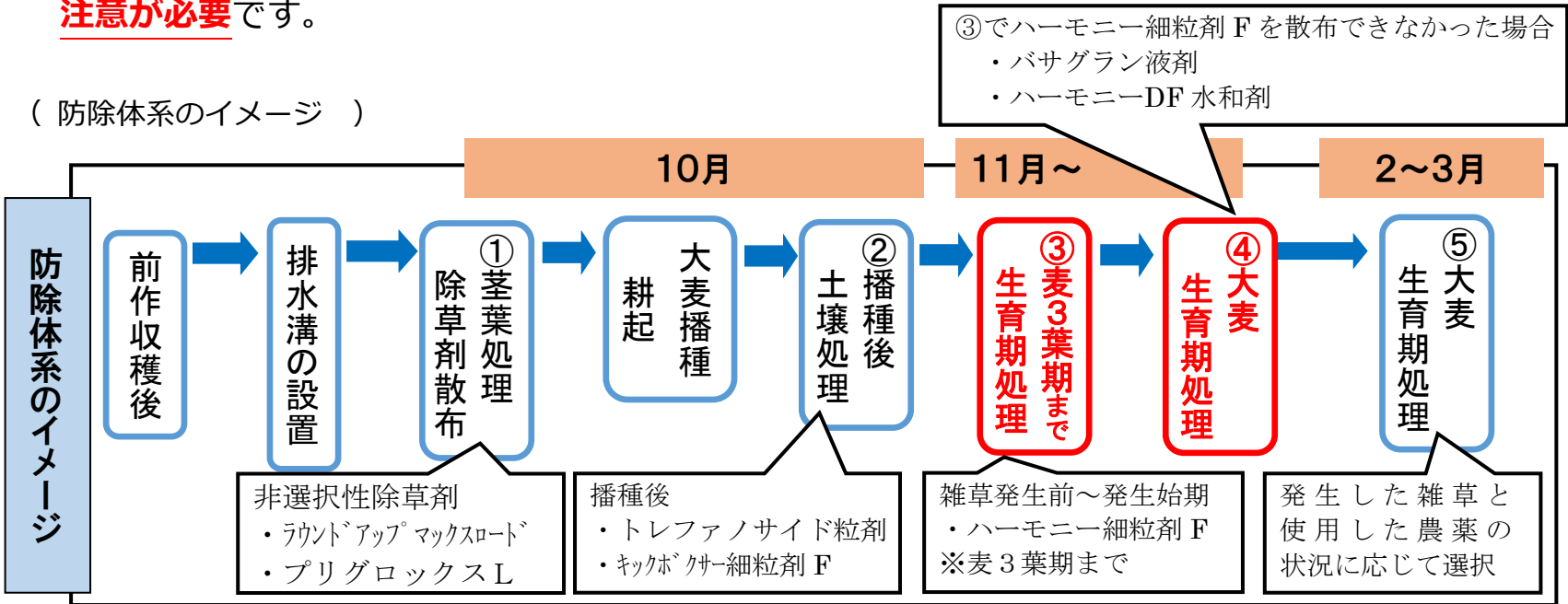
1. 除草剤散布（大麦生育期処理）

播種時の碎土率が低く（土塊が大きい）、土壌処理剤の効果が早期に切れてしまい、雑草が多発しているほ場があります。また、1か月予報（10/3時点）では、**今後も気温が高く推移する見込みのため、雑草の生育が進みやすい**と予想されます。
除草剤は、雑草の葉数が増えるに従って除草効果が低下するため、**早急にほ場を確認し、除草剤の散布を検討**しましょう！**秋に発生した雑草が繁茂すると収量が低下します。**

薬 剤 名	散布時期	10a 当り使用量	希釈水量	使用回数	備 考
ハーモニー細粒剤 F	11月※	4～5 kg	—	1回	・雑草発生前～発生始期 ・播種後～ 麦3葉期まで
バサグラン液剤	11～ 2月下旬	100～ 200ml/10a	70～ 100ℓ	1回	・1年生広葉雑草 ・雑草発生初期。収穫90日前まで
ハーモニー DF水和剤		5～10 g	100ℓ	1回	・1年生広葉雑草 ・スズメノテッポウ5葉期まで ・播種後～節間伸長期まで

※**ハーモニー細粒剤 F は麦3葉期まで**しか使えません。
播種が早かった場合、11月には3葉期に達している可能性が高いので、**散布遅れのないよう注意が必要**です。

（防除体系のイメージ）



左図のように雑草が多発している場合、**至急対策が必要**です。

ハーモニー細粒剤 F
又は
バサグラン液剤、ハーモニーDF（水和剤）
を散布しましょう！

雑草の特徴

1 「コヌカグサ」

- ・ 越冬性の多年生イネ科雑草で、**種子だけでなく、地下茎でも増殖する。**
- ・ 1穂当たり約 1,000 個の種子を付ける。
- ・ **発生後に効く、有効な薬剤がないので、発生前の処理が重要である。**



2 「スズメノテッポウ」

- ・ 一年生（越年生）のイネ科で、繁茂すると減収だけでなく、収穫作業にまで支障をきたすことがある。
- ・ 播種間もない頃から出芽し始め、春先に伸長を開始し、草丈は 40～50cm になる



3 「スズメノカタビラ」

- ・ 一年生（越年生）のイネ科で、出芽は播種間もない頃から春までばらつく。



4 「タネツケバナ」

- ・ 一年生（越年生）アブラナ科で、秋に発生し、越冬する。翌春の早い時期から生長する。
- ・ 種子は、地表 1 cm 以内の浅い層からの発芽に限られる。



5 「カラスノエンドウ」

- ・ 越年草のマメ科で、生長すると草丈が 50cm～1 m になる。
- ・ **収穫作業に支障をきたすだけでなく、種子が精麦の中に混入し、問題となる雑草である。**



<難防除雑草> 手作業による除草が必要

6 「カラスムギ」(エンバク)

- ・ 1年生イネ科雑草で、5月から6月にかけて成熟し、ほ場内に脱落する。
- ・ 脱落した種子は休眠状態ですぐには発芽せず、その後の乾燥・高温条件にあうことで発芽する。
- ・ **地表にある種子は9月頃から出芽するが、地中のものは春先まで遅れて順次出芽する（土壌深 15cm 程度でも発芽する）。**
- ・ **有効な除草剤がなく、発生後に薬剤のみで抑えることは困難である。**



7 「ネズミムギ」(イタリアンライグラス)

- ・ 越年生イネ科雑草で、幼苗で越冬した後、春に生育が旺盛となり、初夏に開花結実する。
- ・ **麦播種前から発生する 경우가多く、耕起を丁寧に行ってよくすき込まないと容易に再生する。**

